

協議会委員 各位

自然再生活動実施後の現地状況

津軽白神森林生態系保全センター

○ 経緯

白神山地周辺の自然再生活動については、当初（H 22年度）赤石川沿いの国有林内での開始でしたが、H 27年度の豪雨により赤石川溪流線が通行止め（H 30年度まで）となったことから、協議会の合意のもと、H 28年度から現在の西目屋村鬼川辺国有林180い5林小班で実施しているところです。

令和2年度で5年目となることから、現地の現況把握のため、令和2年6月1日に当センター職員にて確認を行ったので報告します。

○ 実施年度別の状況は以下のとおりです。

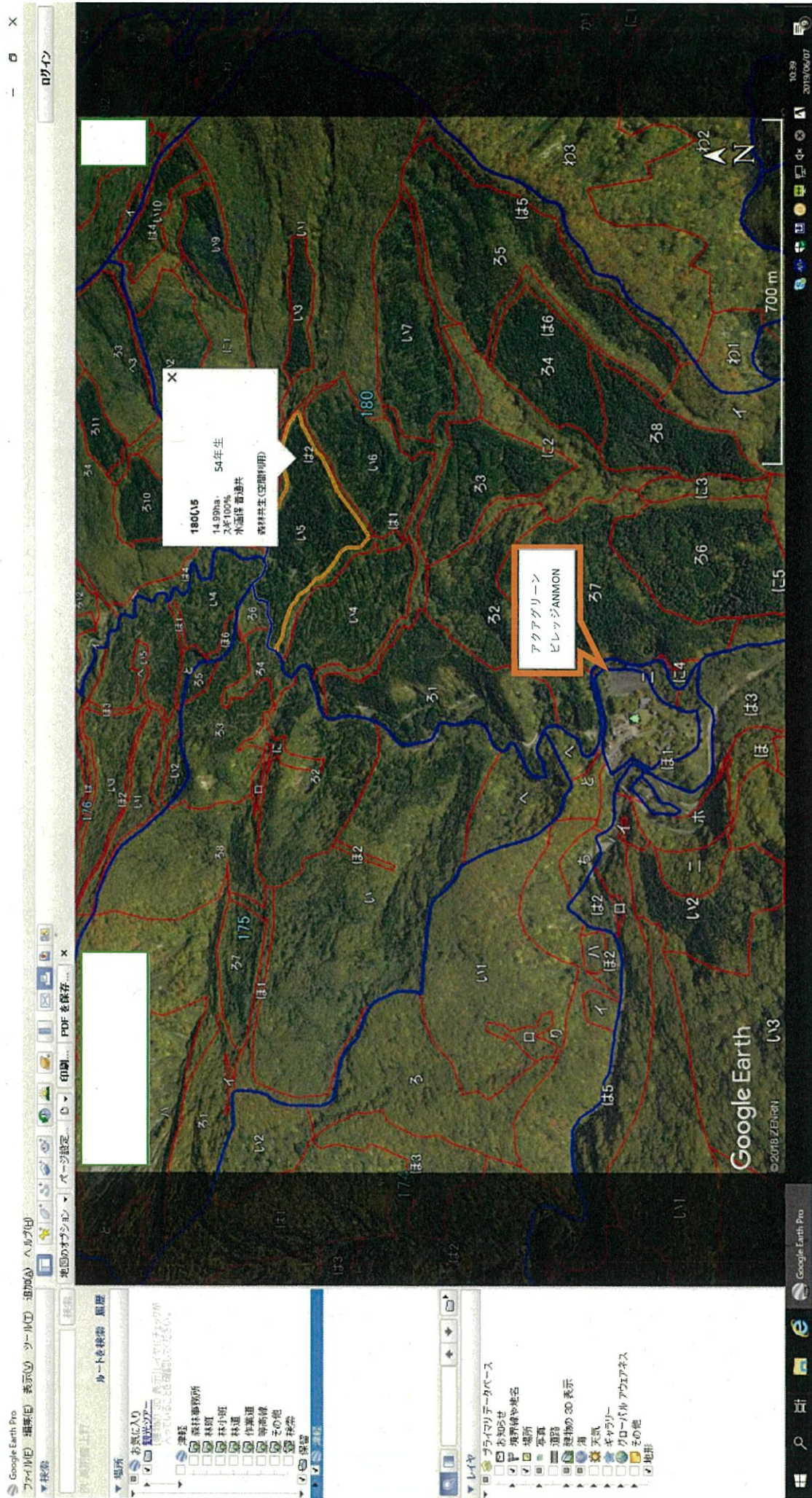
実施年度	確認本数（うちカミネッコン使用本数）	枯損本数		参加人数	備考
		直植え	カミネッコン		
H28	28（0）	0	0	35	日当たり良好
H29	9（3）	6	0	37	シダが覆う
H30	62（13）	9	2	33	日当たり悪く湿っている
R元	57（15）	17	0	30	日当たり悪くフキが覆う

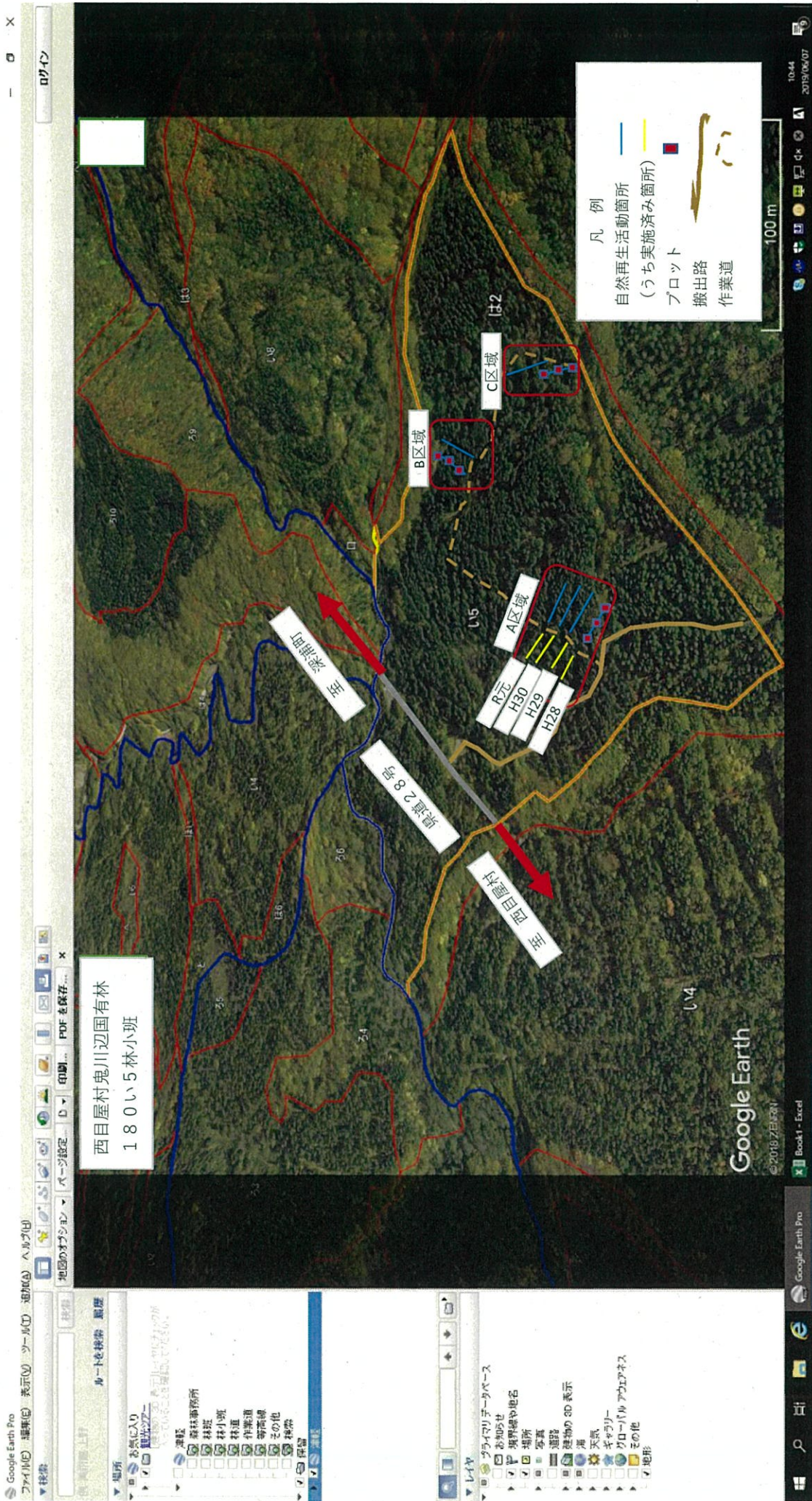
○ 事務局考察

実施済みの伐列は全て北西向きであり、H 28年度実施列は作業道および土場敷に近いことから、空間が確保され光環境が良好。そのため苗の高さも良好である。

H 29年度～R元年度実施列は土壌が湿潤。特にH 29年度実施箇所は下層植生の繁茂（シダ）が著しく、生存している苗は乏しい。雪による損失とともにスギ枯れ枝が苗に積もっていることから、日照不足が原因の一つではないかと思料。

自然再生活動箇所およびプロット位置図





参考画像



H 2 8 年度実施箇所



樹高1.75mのブナ (H 2 8 年度)



H29 年度実施箇所 (スギ枯葉多い)



令和元年度実施箇所 (フキが下層を覆う)



カミネツコン使用苗 (ブナ)



カミネツコンを突き破り根が土壌に入り込む

令和2年度第15回白神山地周辺の森林と人との共生との共生に関する協議会

会議資料に関する質問等及び回答書

団体名・氏名： \_\_\_\_\_

質問・意見等

--